

仮想デスクトップを“賢く”導入するには 構築も運用もお任せ DaaS で 仮想デスクトップ活用のハードルが下がる理由

場所を問わない働き方が普及する中、社内システムやデータに安全にアクセスする方法として仮想デスクトップが注目を集めている。どのような仮想デスクトップを選べばいいのか。

働き方改革の推進や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック（世界的大流行）の影響によって、企業のテレワーク導入が進んだ。先行事例の効果を認めて、これからテレワークを中心とした業務体制に切り替えようとする企業もある。

テレワークの実践において、従業員の PC 利用は最も重要な要素の一つだ。PC の利便性をオフィスと同等の水準に高めるだけでなく、社外でも安全に PC を利用できるようにセキュリティを強化することが欠かせない。社内システムやクラウドサービスに快適にアクセスすることも必要だ。

そうした中であって解決策として考えられるのが、仮想デスクトップだ。遠隔のサーバに接続することで画面情報のみを PC に転送する仕組みであるため、データが外部に出ることがない。従業員の場所やデバイスが異なっても、いつでも一定のデスクトップを提供できるという利点もある。

とはいえ、仮想デスクトップの利用には構築作業と初期投資、煩雑な運用管理が伴い、これが導入の障壁になる。本稿は、こうした問題を解消し、安全で快適な仮想デスクトップを手軽に利用できる「DaaS」（Desktop as a Service）を紹介する。

テレワークが主流になる新時代の業務 PC をどうすべきか



VIEWEアの山崎崇史氏

テレワークは、働き方改革の一環として広がり始め、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって一気に導入が進んだ。テレワークの業務環境を整備する上で問題になりがちなのは、従業員の PC 利用だ。従業員にテレワーク用のモバイル PC を配布するというのが簡単な方法だが、話はそう単純ではない。

「PC を社外で使う際は相応のセキュリティ対策の他、ネットワークやアプリケーションの設定が必要です。リモートでデバイスを運用管理する仕組みも整えなければなりません」と、VIEWEアの山崎崇史氏（「崎」は、正しくは山偏に奇。クラウドサービス事業部クラウドパートナー営業部 グループリーダー）は指摘する。BYOD（Bring Your Own Device：私物端末の業務利用）として従業員に私物 PC を利用させる方法もあるが、これにも注意が必要だ。「従業員がセキュリティツールをインストールしたり、アプリケーションやデータを個人用と業務用に区別したりする必要があります。それらの多種多様な PC を適切に管理するのは簡単ではありません」と山崎氏は話す。

従来の PC 利用は、社内勤務することを前提にしていた。少なくとも PC をテレワーク用に最適化する必要があるが、山崎氏は「それが従業員にとって使いやすいものになるとは限りません」と指摘する。そのため、本格的にテレワーク体制に移行するのであれば、従業員にとって使いやすく、IT 部門にとって管理しやすい PC の利用方法が必要になる。

理想の仮想デスクトップ構築も運用も任せられる DaaS



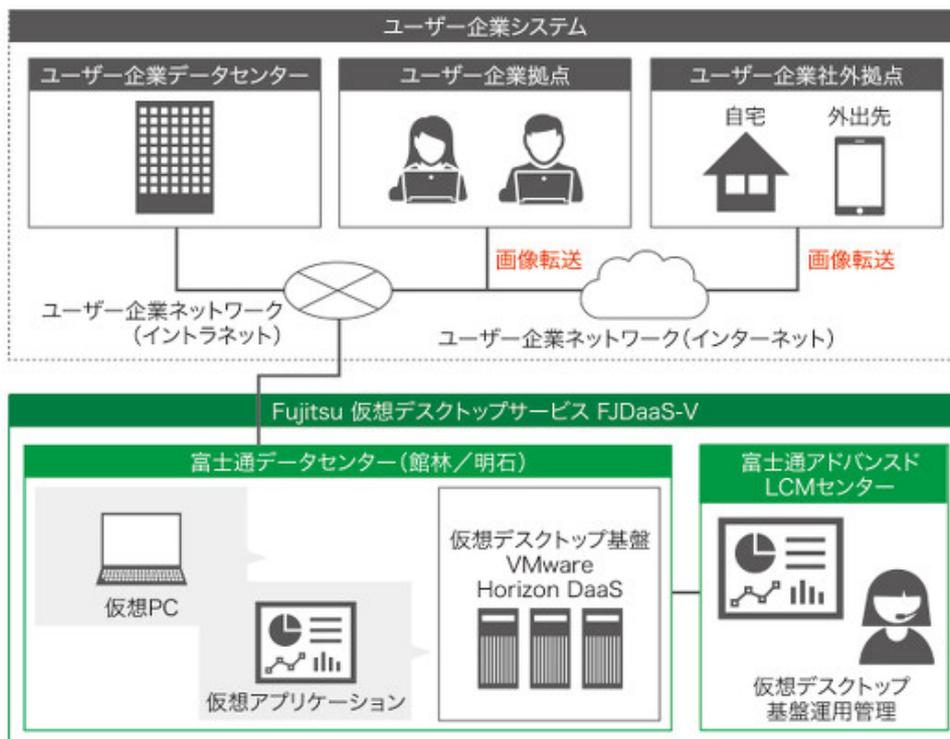
富士通の小関 紘一郎氏

解決策として考えられるのが、サーバに仮想的なデスクトップを用意し、リモートアクセスで利用する仮想デスクトップだ。送受信するのは画面情報と入力情報のみであるため、重要なデータがネットワークを流れないというメリットがある。BYOD であってもデータが PC に残らないためセキュリティを高めることができ、常に一定の業務環境を維持できる。

仮想デスクトップを利用する方式としてユーザー企業が自ら構築するオンプレミスの VDI（仮想デスクトップインフラ）がまず候補に挙がるが、VDI の構築と運用には高度なスキルが必要だ。自前で構築するには大きな初期投資が必要で、準備に半年以上かかることもある。安定運用にも高度なスキルが欠かせず、負荷は非常に大きい。柔軟性にも限界があり、ビジネスや環境の変化に合わせてリソースを素早く増減させにくい。

そこで注目すべき方式が DaaS だ。「仮想デスクトップをクラウドサービスとして利用できるので、初期投資が小さく、柔軟性も高い。一部門からスモールスタートして状況に合わせて全社に展開し、ビジネス環境が変わったときには減らすこともできます」と、富士通の小関 紘一郎氏（マネージドインフラサービス事業本部デジタルワークプレイス事業部 テレワークビジネス部 シニアマネージャー）は述べる。テレワークだけではなく、テレワークとオフィスワークを組み合わせたハイブリッドワークが今後の主流になると考えられるため、「働き方の状況に応じてリソース増減の調整が簡単にできることも DaaS の良さです」と小関氏は言う。

DaaS にはユーザー企業間でリソースを共有する「パブリッククラウド型サービス」や、ユーザー企業ごとに用意されたインフラをサービスとして利用する「プライベートクラウド型サービス」など幾つかの種類がある。特にプライベートクラウド型の DaaS は自社のニーズに合わせてカスタマイズしやすく、高レベルのセキュリティを確保できることが特徴だ。「オンプレミスの VDI を“クラウドライク”に利用したい」というニーズに応える。



DaaS「FJDaaS-V」のサービス構成（出典：富士通資料）

専有の仮想デスクトップをサービスとして“利用”できる

富士通はプライベートクラウド型の DaaS として「FJDaaS-V」を提供している。富士通の堅牢（けんろう）なデータセンターにユーザー企業専用の VDI を構築しつつ、マネージドサービスとして提供するものだ。FJDaaS-V の VDI には、「VMware Horizon DaaS」を採用している。エンドユーザーの操作に直接的に影響しない部分は共有化してコストを抑えつつ、コアとなる仮想化製品は専有化して安定性やパフォーマンス、柔軟性を維持するという方式を採用している。

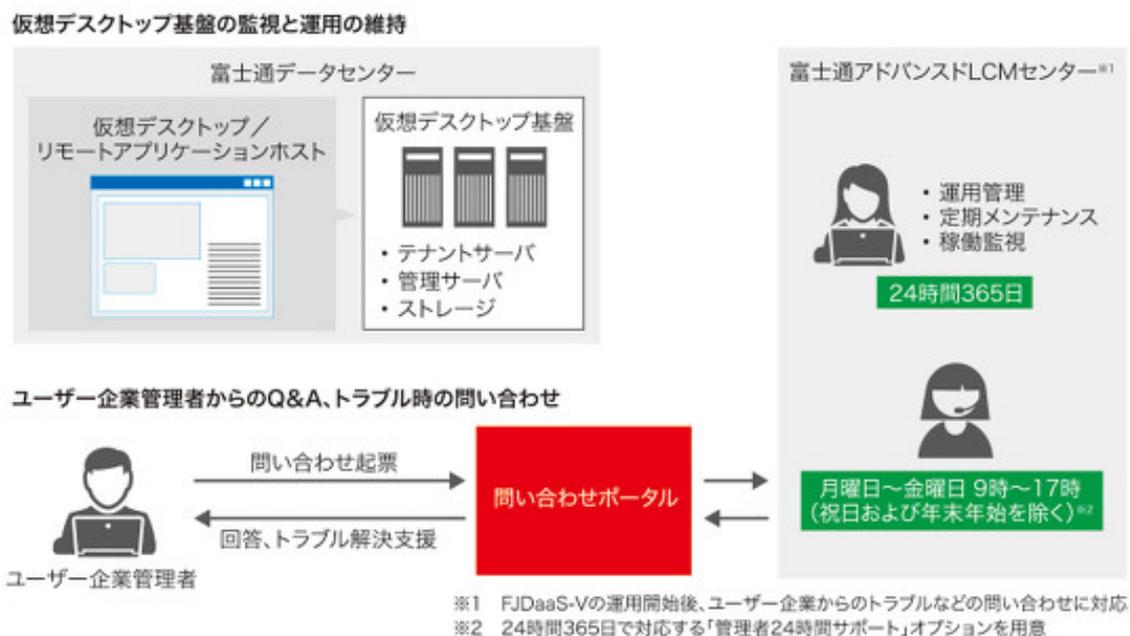
VMware Horizon DaaS は安定性や利便性の高い VDI だが、一方でユーザー企業は自社のニーズに合わせてデスクトップ環境を最適化したり、従業員の利用を定着させたりするところに労力を割く必要がある。仮想デスクトップやテレワークは、導入や展開の段階でさまざまな課題が出てくる。FJDaaS-V はそうした課題にも焦点を当てたサービスだ。「富士通は VMware 製品に精通しており、DaaS 運用の経験やノウハウも豊富です。チューニングや増強などのシステム面から組織への浸透まで、さまざまなサポートを受けられるのが FJDaaS-V のメリットです」と山崎氏は説明する。

富士通は 2014 年から VMware の DaaS 製品を扱っており、同製品の構築・運用のノウハウと経験が豊富だ。その経験の下で、小関氏は「FJDaaS-V の提供においても導入後に発生するお客さまの問題に寄り添って、VMware の DaaS をより快適に使えるように富士通が支援します」と強調する。

高信頼の DaaS をシンプルに利用開始

FJDaaS-V は基本サービスとして、「仮想デスクトップ」と「リモートアプリケーションホスト」を用意している。後者は仮想化されたアプリケーションをエンドユーザーに提供する。仮想デスクトップには DR（災害復旧）対策を付与することも可能だ。災害で FJDaaS-V が停止したら、バックアップサイトでシステムを継続利用できる。

シンプルなサービスメニューを用意していることや定額料金で安心して利用できること、短期間で利用開始できることなどが FJDaaS-V の特徴となっている。「まず試しに使ってみたい」という場合は、最小 20 台から素早くスモールスタートができる。「セルフポータルが用意されているため、IT 管理者はリモートから簡単に DaaS を運用できます。トラブルもポータルから問い合わせれば、富士通アドバンスト LCM センターのサポートを受けられます」（小関氏）



富士通が提供する仮想デスクトップの運用サポート（出典：富士通資料）

FJDaaS-V は豊富なオプションサービスも用意しており、ユーザー企業の求める操作性に応じてリソースを追加したり、マルウェア対策を追加したり、24 時間ヘルプデスクなどの管理者向けサポートを組み合わせたりして、安定した仮想デスクトップ運用を目指すことが可能だ。業務システムを富士通のデータセンター内に設定すれば、高速な内部ネットワーク接続によってアプリケーションへの快適なアクセスを実現する。こうした総合力も、FJDaaS-V の魅力の一つだと言える。

さまざまな業務環境の課題を多彩なサポートで解決

これまでにさまざまなユーザー企業が富士通の支援を受け、VMware 製品をベースにした DaaS を導入している。ある大手保険会社は、基幹系システムを開発している情報子会社の環境整備に悩んでいた。開発ピークには要員スペースが不足し、オフピークには余剰端末が発生していた。個別に開発端末を準備するという、非効率性やセキュリティも課題だった。この情報子会社は FJDaaS-V を採用したことで、低コストに安全なリモート開発環境を整備して柔軟に開発リソースを増減できた他、データ漏えい対策やマルウェア対策も強化した。

オンプレミスの VDI から DaaS に移行した事例もある。ある鉄道会社はテレワークによって仮想デスクトップの利用が増加した。このためリソースが不足し、運用負荷が肥大化していたが、FJDaaS-V に移行することでこれらの課題を解決。富士通のデータセンターに認証基盤を構築して通信の高速化も図っている。FJDaaS-V を利用中のエネルギー輸入企業は、「Windows 10」への移行においても富士通のサポートサービスを活用。富士通から最適な移行方法の提案や既存のシステムデータの検証、Windows 10 のアップデートルールの策定などの支援を受けて問題なく移行を完了できたという。

働き方改革に向けては PC 利用だけではなく、業務システムを新しい業務体制に最適化することも重要になる。富士通は今後、FJDaaS-V と同社の各種クラウドサービスとの連携を強化。仮想デスクトップの大規模環境であっても迅速に利用を開始できるように、環境構築の時間短縮にも取り組む。セキュリティ面でも、既存のマルウェア対策や情報漏えい対策に加え、振る舞い検知システムといった新しいセキュリティ技術を積極的に採用するなどして、支援を充実させる方針だ。

富士通コンタクトライン（総合窓口）

0120-933-200

受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日・当社指定の休業日を除く）

富士通株式会社

<https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/virtualdesktop/v-daas/>

※この冊子は、TechTarget ジャパン（<https://techtarget.itmedia.co.jp/>）に 2021 年 12 月に掲載されたコンテンツを再構成したものです。

<https://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/2112/16/news07.html>

Copyright© ITmedia, Inc. All Rights Reserved.